



柏崎市立内郷小学校

学校データ

【学級数】

6学級

【児童生徒数】

62人

【地域コーディネーターの有無】

有

I LOVE 内郷 ～進んで地域にかかわり主体的に活動する子～

1 はじめに

内郷小学校は、柏崎市の北部（旧西山町）に位置し、高内山・後谷ダム・別山川など豊かな自然に囲まれている。地域との連携のための組織「西山っ子をはぐくむ会」は、西山の子どもたちの豊かな心を育成する取組を数多く実践している。

子どもたちの主体的に学んだり、自分の考えを表現したりしようとする意欲は高い。さらに校内に留まらず、自ら校外へ働きかけたり発信したりする姿を求め、校外の人とやり取りをする経験を多く積ませたいと考えている。

総合的な学習では、テーマを「I LOVE 内郷」とし、「自分発～地域経由～自分着」の課題解決活動の学習を展開してきた。

2 取組の実際

(1)SDGs～内郷のためにできること

3・4年生（複式）は「進んで地域にかかわる」を目指し、取り組んでいる。今年度はSDGs17の目標から子どもたちがまち、陸、海、3Rの4つの目標を選択し、実践を重ねた。そのうちの2グループを紹介する。

① まちグループ（5人）

【実践1】まちのクリーン作戦

地域に協力を呼びかけ、クリーン作戦を計画した。集まったごみを集積所まで運ぶ軽トラックの手配も依頼した。しか

し、県の感染症特別警報発令により、子どもたちだけの活動に急遽変更した。

【実践2】保育園でリサイクルイベント

実践1を踏まえ、不用品を有効に活用する意識を高めるイベントを企画した。地区内にある2つの保育園



おもちゃの作り方を教える

子どもたち

を訪問し、空き箱や空き缶等を活用したおもちゃや楽器の作り方を教えた。

② 3Rグループ（5人）

【実践1】おもちゃBOXの設置

おもちゃをリユースするためのBOXを、市内の公共施設4か所に約1ヶ月間設置した。ポスター掲示や柏崎日報への情報提供で地域の方に呼びかけた。回収したおもちゃは、2つの保育園へ寄付した。協力した地域の方の思いと楽しく遊ぶ園児の笑顔をつなぐ役割を担ったことに、活動へのやりがいが強めた。

【実践2】食品ロスを考える

次に子どもたちは、身近な食卓に着目した。食品ロスを減らすレシピはネットでも広く紹介されている。その中から、手軽にできるものを精選し、レシピカードを作成した。地域のスーパーマーケットやコンビニエンスストアの協力を得ながら、レシピを地域の人に広げた。

(2) 考えよう！これからの米作り

5年生は、毎年グラウンド脇の水田で稲作体験を行っている。

【実践1】内郷のコメはおいしい

収穫したコメを「あおぞら米」と名付け、販売活動を行った。そのために、JAの方や「内郷の伝統のはざがけ米」を生産販売している「ヤマノホ」創業者をゲストティーチャーに招き、内郷のコメの特徴と販売方法について学んだ。コメの魅力を引き出すパッケージやパンフレットの工夫、消費者の声を聞くアンケート等を行った。

【実践2】コメの消費量を増やす

ゲストティーチャーから学んだことで最も心を揺さぶられたのが、コメの消費の低下であった。そこで、給食を通して中学校区の児童生徒に対して米食のよさを伝えることを考えた。各校の食の嗜好を探るためのアンケートや地域の食堂への調査などを実施し、特別献立を考案した。中学校区の栄養士に働きかけ、実際に給食の献立として取り上げてもらった。

(3) 今輝く自分、西山の人々とかかわろう

6年生は、地域の方とかかわりながら、様々な事象を自分ごとと捉え直し、自分を見つめ直すことを学習の中心に据え活動してきた。

【実践1】内郷から戦争を考える

2人のゲストティーチャーから、当時の暮らしについて話を聞いた。自分たちと同じ年頃に戦争を経験した話から、今の自分と比べながら戦争について考えた。また、長岡空襲の際、真っ赤に燃え上がった西山の空の話に聞き入っていた。

【実践2】地域で活躍する人々

二田物部神社の宮司、アニメーター、会社経営者等を招き、働くことの意義や西山に対する思いなどを学んだ。

(4) 学習発表会での意見交流

それぞれの取組の中間発表の場として学習発表会を位置付けている。地域の方や保護者、これまで学習を支えてくださったゲストティーチャーに参加していただき、意見をもらう。ここでの交流を生かし、次の課題を見付け、今後の活動に生かすことをねらっている。



えんたくんを使った参加者との意見交流

3 成果と課題

及び本実践で育成された資質・能力

どの取組でも「自分発」の課題設定を重視してきた。課題設定→課題解決に向けた計画→実践→振り返り→振り返りの共有→次の課題設定→・・・と学習を継続させることで、自分の課題を更新させ、主体的に追究していくことができた。さらに学習発表会で多くの意見やアドバイスをもらうことが、活動をスパイラルにつなげることに有効に働いた。

感染症対策のもと、活動の延期や中止が余儀なくされたものもあったが、地域コーディネーターや西山っ子をはぐくむ会とともにできる方法を考えながら、進めることができた。このような地域との関係は内郷の宝である。

4 おわりに

これまで、西山ふるさと館を会場に、地域の西山かたくり一座の指導のもと創り上げる歴史劇が地域学習の中心を担っていた。しかし、学習指導要領の改訂を機に、必要とされる資質・能力を育成する活動がどうあるべきかを見直し、子どもの疑問や関心を活動の中心にして再編成した。まだ、改善の必要はあるが、一人一人の探究を着実に充実させることができていると感じている。